

## 令和4年度 包括的な支援体制の構築・整備に向けたモデル事業 県社協 HP 掲載用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、以下に事業の概要を分かりやすく、簡潔に記入してください。

社協名	逗子市社会福祉協議会 葉山町社会福祉協議会
対象となる実践・ テーマ ※いずれか1つに○ をつける。	(1) 「社協の総合相談」の充実を目的とした事業 (2) 社協の専門性と組織特性をふまえた職員育成を目的とした事業 (3) その他、包括的な支援体制の構築・整備の推進に係わる事業
事業名	令和4年度逗葉地区コミュニティソーシャルワーク基礎研修事業
<p><b>事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕</b></p> <p>※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入して下さい。</p> <p>※各市町村社協ホームページ等にて本事業の掲載等を行う場合は、URLを記載して下さい。</p> <p>1) <u>内容等</u>（日時、会場、具体的な取組み内容、参加者の数や感想等も含む）</p> <p><b>1. CSW 基礎研修の開催</b></p> <p>(1) 目的：8050世帯や介護と育児のダブルケア、貧困、ひきこもりなど、個人や世帯が抱える課題が複雑化・複合化する中、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を実現するためには、住民はもとより、各分野の専門職や行政が連携して課題解決を図るとともに、「個別支援」と「地域支援」を一体的に進めていくことが必要とされています。</p> <p>日頃逗子市・葉山町内で個別支援や地域支援を担う専門職等が分野を越えて一堂に会し、円滑に課題解決につなげられるよう多職種連携の必要性やコミュニティソーシャルワークの視点や考え方を学ぶことを通じて、逗葉地区での多機関・多職種連携、ネットワークの構築を進めるために研修を開催しました。</p> <p>(2) タイトル・テーマ：「複合的課題を抱える家族や制度の狭間のケースについて一緒に考えましょう＝地域支援と個別支援を結びつける事例検討の学習会＝」</p> <p>(3) 日時：令和5年1月21日（土）13：00～17：00</p> <p>(4) 会場：逗子市福祉会館 会議室A・B</p> <p>(5) 参加者：逗子・葉山で活動する福祉専門職、行政、社協職員など 27名（逗子14名、葉山7名、広域6名）及び事務局5名、講師2名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>参加者内訳：逗子市／葉山町内の地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・基幹相談支援センター・子育て支援センター・子ども発達支援センター・独立型社会福祉士事務所・社会福祉協議会（地域、生活困窮、権利擁護）、ピアサポーター、神奈川県青少年センター、神奈川県社会福祉協議会（地域、ケアラー支援）</p> </div> <p>(6) 講師：日本社会事業大学 准教授 菱沼 幹男 氏 宇都宮短期大学 教授 宮脇 文恵 氏</p>	

(7) 内 容：

- ①講義「包括的支援体制の構築に向けたコミュニティソーシャルワークの展開～地域の中で個別支援者と地域支援者がつながり合うために～」
  - ・コミュニティソーシャルワークとは
  - ・包括的支援体制の構築にむけた専門職の役割とは
  - ・地域専門職の地域生活支援スキル（技法）に関する全国調査報告について
- ②グループワーク「9 マスフレームを活用した事例検討のグループワーク」
  - ・フレームの説明、事例説明、質疑、グループワーク、発表、コメント
- ③ネットワーキングタイム～多職種連携の促進・強化にむけて～
  - ・各機関の役割・業務を紹介・名刺交換し、日常業務で、相談し合える関係づくりを行いました。

(8) 参加者の感想（抜粋）：

- ・本日教えていただいた9マスフレームは実践していきたいと思った。事業所でも活用できればと思った。
- ・人とのつながりが大切なのだと感じた。
- ・自分自身の志向が、皆様と共有することでこだわりが見えた一方で広がりがあった。また、他のグループの発表から新たな視点を学ぶきっかけとなった。

## 2. 企画会議の開催

(1) 目 的：逗葉地区 CSW 基礎研修の開催に向けて、下記の目的のもと各専門職と行政、社協が検討、意見交換し、逗葉地区における多職種連携の強化を図りました。

- ①研修で扱う事例の作成
- ②研修の持ち方、進め方などの提案・検討
- ③研修の周知
- ④研修当日の運営（グループワークのファシリテーションなど）

(2) 参加メンバー人数および所属：計 14 名

	分 野	団体・組織名	
1	高齢	逗子市社協 地域福祉推進係/元さくら貝サービス事業所/元逗子市社会福祉協議会 在宅支援係	
2	障がい	逗子市/葉山町基幹相談支援センター	
3		(支援センター風)	
4	児童	葉山町子育て支援センター ぽけっと	
5			
6	生活困窮	逗子市社協 地域生活支援係	
7	行政	逗子市 福祉部社会福祉課地域共生係	
8		葉山町 福祉部福祉課	
9	地域	逗子市社協 地域福祉推進係	
10			
11		葉山町社協 はやま住民福祉センター	
12			
13	県域	オバサ ーバー	神奈川県社協 地域福祉部地域課
14			

(3) 企画会議の回数：全4回（研修前：3回、研修後1回）

## 2) 成果や課題等

### <成果>

- ・様々な機関・職種の人にも入っていただいた企画会議を行い、研修の企画・運営を通して、行政・社協や相談機関の専門職等が、多機関・多職種連携のあり方を話すことができ、企画会議自体も「学びの場」「つながりづくりの場」「連携体制づくりの意識共有の場」となりました。また、企画会議メンバーからの当日参加や周知にもご協力いただき、当初予定していた定員数に近い参加者を得ることができました。
- ・福祉分野の中で、高齢・障害・児童・ケアラー・ひきこもり・生活困窮・権利擁護・地域支援と様々な支援対象・テーマの専門職が一堂に会し、9マスフレームの事例検討において1つの事例を通して多角的な視点からの多職種連携のあり方や方法を考える機会となりました。
- ・9マスフレームの事例検討では、実際の事例を使い、事例担当者から発表していただいたことによって、事例提供者からは、「励まされた。事例をあらためて見直す機会になった。外部の視点を知ることができ、俯瞰的に見ることができた」といった感想を聞くことができ、実際のケースの支援にも役立てていただくことができました。また、参加者からは新たな発見や視点の違いに気づくことができたとの感想が寄せられており、講義や9マスフレームの事例検討によるグループワークと2名の講師からのフィードバックが、参加者、事例提供者、企画会議メンバーにとってそれぞれが貴重な学びとなりました。
- ・事例検討のグループワークを通じてできた参加者同士のつながりに加え、ネットワーキングタイムとしての名刺交換の時間を設けたことで、参加者同士で研修後も連絡を取り合える関係づくりができました。受講前と比べて、他の参加者について、「何かあったら相談できる」「顔を知っている」と答えた人が増えるなど関係性を深めることができました。

### <課題>

- ・今後市町村域での包括的な支援体制の構築・整備を進めていくためには、行政との連携が必要不可欠であると考えられます。企画会議メンバーへの参画だけでなく、関係課の職員が研修にも参加していただけるよう開催日程や案内方法など考慮するとともに、より積極的に参加を呼び掛けていく必要があります。
- ・研修後のアンケートでは、9マスフレームの手法を用いた事例検討が「参考になった」「役立てそう」との感想はありましたが、個別支援と地域支援を一体的に進めることの必要性や考え方について触れた感想はなく、研修をきっかけに個別支援と地域支援を一体的に進めることの意識づけができたのか判断が難しい状況です。
- ・今回の研修では、主に福祉分野の様々な専門職同士のつながりをつくる機会となりましたが、分野や業種などを越えた包括的支援体制の構築を目指す上では、福祉分野の専門職だけでなく、住民や地域活動、医療や教育、商業など他分野・他業種との連携を推進できるような工夫が必要です。
- ・コミュニティソーシャルワークの視点や考え方を学ぶ「CSW基礎研修」という枠組みでは研修内容やプログラムがある程度限定されるため、過去に参加した参加者のリピート参加や新たな分野・業種の参加者を呼び込めるようなプログラム設定や周知・集客の難しさがあります。
- ・運営上の課題としては、  
①研修の当日、事務局の逗子市・葉山町社協が研修運営に手間取られ、参加者とつながる時間が持

ちにくい状況がありました。

②参加者が参加しやすい開催の曜日や時間設定が難しく、土曜日開催のため参加を希望しなかった人や、募集の段階で「研修時間が長い」と感じた人がいたようです。実際の参加者からは「時間が足りなかった」「もっと詳しく話を聞きたかった」等の感想があり、研修の時間内では十分に伝えきれませんでした。時間数や日数を増やすと多忙な専門職の参加を得られにくくなることが考えられます（9マスフレームを主のプログラムにする場合、初めて9マスフレームを使う参加者を対象にすると、今回よりも時間を短縮することは難しさがああります）。

### 3) 今後の展望等

- ・今後も、各分野の専門職や行政が連携して課題解決を図るとともに、「個別支援」と「地域支援」を一体的に進めていくために、今回つながりができた参加者や企画会議メンバーをはじめとした多機関・多職種の専門職や職員と、学び合い、つながり続けることが求められ、研修形式のみならず、ゼミナールや同窓会、レクリエーションなどの開催も企画会議では提案されています。逗葉地区での連携のあり方や各市町域での包括的支援体制構築の推進状況や方針なども踏まえ、今後両社協で検討していきます。
- ・また、包括的支援体制の構築にむけては、本研修の取り組みのみならず、逗子市、葉山町それぞれで取組をしていきます。

逗子市社協では、令和5年度が、逗子市と一体的に策定している「逗子市地域福祉推進計画・逗子市地域福祉活動計画」の初年度となり、逗子市と協働し進捗管理を行います。また、地域における支え合いの意識醸成、活動を広げるため、お互いに他者や他者の抱える困りごと（生活問題や福祉課題）への関心を深めること、地域住民等の福祉活動を促進することを目的として、「地域支え合い学習会」を開催します。

葉山町社協では、現行の地域福祉推進プランの推進と次期プラン策定にむけて、町行政とともに、町域での包括的支援体制のあり方の検討や進め方を確認していきます。また、住民や専門職からなる各種委員会や他の研修の場においても、地域住民と専門職の連携を進めるための取り組みを考えていきます。

～当日の様子～

